

「三陸復興国立公園」利用者対応強化調査事業の概要

1. 事業の目的

宮城県では、平成24年5月、環境省において公表された「『三陸復興国立公園』の創設を核としたグリーン復興ビジョン」（以下「ビジョン」という。）を活用し、国内外から被災地への観光客等の入れ込みを増加させ、復興の加速化を図ることを考えている。

本事業はその実現に向けて、将来、三陸復興国立公園に編入される予定の地域において、国内外からの利用者への対応を強化することを目的に、資源調査等並びに関係市町・観光団体等との意見交換及び有識者会議を通じ、「ビジョン」の具体的な取組である「グリーン復興プロジェクト」を活用した復興のあり方を検討・取りまとめるとともに、インターネットを活用した情報発信・案内手法の検討等を行うものである。また、三陸復興国立公園の創設を契機とした地域活性化の機運醸成のためのシンポジウムを開催する。

2. 事業の内容

1) 調査・検討

対象地域における既存資料・文献調査や現地概査、先進地域の事例調査、関係市町村等の意見聴取を行い、グリーン復興プロジェクトを本県において推進するための下記項目についてハード整備やソフト事業のあり方等について検討する。

検討に際しては国立公園、エコツーリズム、長距離トレイル、観光による地域振興等に関する専門家により構成される有識者会議を設置し、専門的知見からの意見や助言を得る。

- ① 県立自然公園の三陸復興国立公園への編入の可能性・課題及び編入の効果
- ② 復興エコツーリズム
- ③ 里山・里海フィールドミュージアム
- ④ 東北海岸トレイル
- ⑤ 拠点施設（ビジターセンター、トレイルセンター等）
- ⑥ 情報発信

2) シンポジウムの開催

グリーン復興プロジェクトを活用した具体的な取組を進めるため、地元の機運醸成に向けたシンポジウムを開催する。

3) パンフレットの作成

国内外からの訪問者（特にアジア自然公園会議の参加者）に対して、グリーン復興の考え方や本県沿岸部の被災状況、復興に向けた取組状況等を紹介するため、多言語によるパンフレットを作成する。

3. 事業の実施フロー

